

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 学校法人 佐野日本大学学園 佐野日本大学中等教育学校  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒327-0192

栃木県佐野市石塚町 2 5 5 5

E-mail [t00438@sanonihon-u-h.ed.jp](mailto:t00438@sanonihon-u-h.ed.jp)

Website <http://ss.sanonihon-u-h.ed.jp/>

幼児児童生徒数 男子 260 名 女子 272 名 合計 532 名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～18 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は「自主創造」「師弟同行」「文武両道」を建学の精神とし、佐野（栃木県）の地から世界に羽ばたく人材の育成に努めている。その中でも「自主創造」を教育上最も重要な課題と捉え、生徒達が自ら考え・行動することを求めている。ESD の実践においては「国際理解教育」を中心に活動を行っており、数多くの海外派遣・生徒受け入れを実施する「実学型プログラム」を充実させている。

ユネスコスクールの認定からわずか 1 年であり、具体的な学習計画は現在策定中であるが、平成 29 年度においては①学習内容のアウトプット、②学習内容の共有、を大きな柱に据え活動を実施してきた。

平成 30 年度はこれらをさらにブラッシュアップし、体系化した教育内容の確立を目指す。具体的には①では「佐日中等 EXPO」と題したプレゼンテーションの機会を設け、佐野市・栃木県全域への呼びかけをし、一人でも多くの方に学びの成果を発表していく。また②では「Share the Wonder プログラム」を立ち上げ、学習内容を生徒たちが独り占めするのではなく、佐野市内の児童・生徒にも広げていき、ともに成長していく機会の拡充を目指す。実際、その事前段階として平成 29 年度内にも市内の小中学校を訪問し、国際交流活動を行ってきた。

加えて、ユネスコに関わる近隣の外郭団体からの支援を頂きながら、校内のみの活動にとどまらない学びの機会を得ることが出来ている。平成29年度内には③「平和の鐘を鳴らす運動」を佐野ユネスコ協会の援助を頂き、平和教育を実施した。④また開倫ユネスコ主催の「世界哲学の日」を祝う講演会にも参加している。それ以外にも福岡県大牟田市で行われたユネスコスクール全国大会に参加する等、次年度以降の本格実施に向けた準備を重ねている。平成30年度以降は上記の機会をさらに深め、より多くの生徒が様々な英知に触れ、学ぶ機会を提供していきたい。

①「佐日中等 EXPO」 ～生徒のプレゼンテーション～

生徒たちが学んだ内容は、彼らが今後成長していくうえで欠かすことが出来ない「財産」であるが、それをレポート作成及び他者への発表と言う活動を通じて「自分のものとする」場を設けている。このイベントはユネスコスクールへの申請中であった平成28年度からスタートしており、佐野市内・栃木県内の小中学校及び保護者、一般の方々へ呼びかけを行い、一人でも多くの方の目に触れる機会としている。

②「Share the Wonder プログラム」 ～共有～

ユネスコスクールの認可を受けた平成29年度にパイロットプログラムとして実施。本格化は平成30年度以降を目指す。佐野市内にある市立田沼西中学校へはオーストラリア姉妹校の生徒20名を引率し、当該校の生徒とともに学ぶ機会を準備し、文化交流を実施。また市立石塚小学校にはマレーシア姉妹校の生徒約20名を引率した。そこでは、マレーシアに伝わる伝統的な衣装・ダンスを披露し、さらにはポスターなどを用いた文化交流を実施。

③「平和の鐘を鳴らす運動」 ～平和の教育～

佐野ユネスコ協会の協力の下に初めて実施。佐野市内に住む「戦争経験者」の方にお越しいただき、講話を頂戴し、生徒たちが生きる社会においていかに平和が大切であるかを理解する機会を頂いた。

④「世界哲学の日」 ～ユネスコの在り方を学ぶ～ ※画像なし

「哲学なくしてユネスコなし」という考えのもと、ユネスコ本部(パリ)が定める「世界哲学の日(11月第3木曜日)」を開倫ユネスコ協会のご協力の下、東京・国連大学にて講演・勉強会に参加。エリザベス・ローズ国際会議場で実施された。



(①佐日中等 EXPO での発表)



(②地元小学生との交流)



(③平和の鐘を鳴らす運動)



(ユネスコスクール認証式)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(本校では国際理解教育の一環として数多くの海外派遣を含む活動を実施しているが、その事前・事後指導にかなり)	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

1. 「平和の鐘を鳴らそう」開倫塾HP <a href="http://www.kairin.co.jp/unesco1/heiwa.htm">http://www.kairin.co.jp/unesco1/heiwa.htm</a>
2. ESDについて 文部科学省HP <a href="http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm">http://www.mext.go.jp/unesco/004/1339970.htm</a>
3. 東京都 江東区立八名川小学校HP <a href="http://yanagawa-sho.koto.ed.jp/modules/hp_jpage5/">http://yanagawa-sho.koto.ed.jp/modules/hp_jpage5/</a>

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校においては、ユネスコスクールとしての認可を平成29年2月に受けたばかりであり、まだ1年程度の活動しか行っていない。平成30年度以降の活動についての具体的な指導計画は現在策定中であるが、基本的なテーマを「国際理解活動」として据えている。29年度以前からも、海外派遣を含む数多くの異文化交流活動を実施してきた。それぞれの活動においては異なったテーマが設定されており、それに向けた事前・事後活動を充実させてきた：

ア) マレーシアへの派遣…四大宗教が混ざる異文化を体感する

イ) シンガポールへの派遣…世界最先端の技術革新に触れる

ウ) オーストラリアへの派遣…先住民族の文化に触れる、実践英語

平成30年度以降には、上記のような各種活動の事前・事後学習が活動目標に照らし合わせて的確に実施されているか、またそれが本校としてのユネスコスクールの目的に即しているか検証する必要がある。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校においてのユネスコスクール実施に向けた体制は現在調整中であるが、教頭を主幹とし、必要十分な教員を確保している。ユネスコスクール担当教員が教職員全体に向けた教員研修も随時実施しており、一部の担当教員に偏らない協力体制を確保している。

また、地元の市町村に拠るユネスコ協会からの支援も受けており、自治体と学校の協力体制が確保できている。

例) 平成28年11月 「世界哲学の日」 by 開倫ユネスコ

例) 平成29年10月 「平和の鐘を鳴らそう運動」 by 佐野ユネスコ

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

本校においては、平成29年度の活動評価について外部委託は実施していない。ユネスコスクールを担当する国際交流部員及び教頭・校長へのヒアリング等を含め、内部的に評価している。そのうえで次年度以降の活動項目を策定し、運営している。

平成29年度においては在籍生徒数に対しての海外派遣を含む交流活動数が過多であり、対象生徒が分散してしまった。各活動ごとに成果があり、それを電子化してまとめているが、「形」として残すことが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

平成28年度より「佐日中等 EXPO」というイベントを立ち上げ、年度の半ば及び年度末に実施している。これは、当該年度中に実施してきた各種生徒活動を報告するものであり、生徒・生徒保護者・県内の小中高等学校・教育委員会・塾関係者などにDMを送付し、参加を呼び掛けている。

国際交流活動においては、当該年度中の海外派遣・受入事業に参加した生徒に電子化したレポートを作成させ、①ポスター形式での発表、②パワーポイントを使用したプレゼンテーションなどを実施。今後はこれらの発表をさらに大きな規模で発表していきたい。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

先述のとおり、本校においては各種外郭団体からの手厚い支援を受けることが出来ており、この意味においてはとても利点があるといえる。

例えば、本校が位置する佐野市においては佐野ユネスコ協会のバックアップを受け、①ユネスコスクール認証プレート授与式 ②「平和の鐘を鳴らす運動」講話、③新春の集いなどを実施。さらに、開倫塾が母体となる開倫ユネスコからは「世界哲学の日」にともなう講演会などに招待いただき、活動の内容充実を図ることが出来ている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)  
※チェック事項 2-4 に対応

平成29年度末現在においては、国内外のユネスコスクールとのネットワーク形成はできていない。(平成28年度に神奈川県にある 湘南学園中学校高等学校を訪問し、当校が実践しているESD教育について研修を行った)。

本校では国際理解教育の実践及びその充実を目標に掲げていることから、海外のユネスコスクールとの交流はとても興味深い。そのためには本校においてのESD/SDGs教育の内容充実を急ぎ、意義のある交流としていくことが今後の課題である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

ユネスコスクール認定以前では、教科外活動は「面倒な作業」と受け取る生徒・教員が多くあったが、ユネスコスクールとしての大義を果たすとともに、他校での実践例を紹介していく中で、とりわけ生徒間での学びに対するモチベーション向上に効果があったのは間違いない。それらの活動で経験した内容をもとにして各個人の希望進路が明確化し、それに邁進するエネルギー源となっている。

また、活動の内容に対しての一定評価を受ける中で保護者間での認知が進み、教育内容への理解・協力が今まで以上に得られるようになった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

「佐野の地から世界に羽ばたく人材を育成する」という言葉を標語とし、本校においての国際理解教育はスタートしたが、その意思を受け継ぎ、ユネスコスクールがスタートした。

本校の活動目的は「国際理解教育の促進」であり、一人でも多くの生徒たちに世界の現実を学ばせ、既知感を育成していくことである。そこで数多くの海外派遣プログラムを実施し、そこで学んだ内容をプレゼンテーション形式で発表させる場を「佐日中等 EXPO」として設けている。

平成30年度は、本校生徒たちが数々の国際活動において学んだ内容を独り占めするのではなく、佐野市内の児童・生徒たちに広めていく「Share the Wonder プログラム」を立ち上げ、国際理解の Evangelist を育成していくことに注力する。これを3年～5年計画で実施していく。

ひいては、この活動を通じて保護者・及び市全体を巻き込んだコンソーシアムの立ち上げを標榜する。これにより、将来を担う生徒達が国際的に活躍できる機会の拡充を期待する。